

大隈自下

黄門倫敦も既ニ二週間ノ滞在ニ大略見物

も致一市中も勝午ニ通行出来ヤ目下は

避暑中ニ之に居リ申ハ心併圖下ノカ

ノ使ハのち可ニ同公使ノ添書ニ付

のそ記者と知者相本より仁何ラレト

在活即ヤルハ今も七好ヲ俱樂部ニ

余辰ニ招カレカハ昨日は好イムニ社トキ

外部の見物即ヤル

私共も来ハナレヨリ林を北極迄ハ

伯林ニ赴リ候リハ其ノ本も待ハ

此後ハ英皇ノ御用ニ
使ハルニ付テハ
ナシ積リニハ

只今極東ニ圖下ノ高層樓ヤル有テニ
者ニ送リハ不相違テ元皇大度ニ
受けハルニ其地ニ十一月ノ復

加ハ使ニ解任寛昭共同使ノ外

ハ迄モシキガ日本ヨリ世田

合即大慶ニ存ヤル日本政府ノ意向

角も日本国民ハ英國ヲ制裁シ

奨励シ英國ノ協定ニ家ニ對シ

ヲ既ノ外ニ其河ニ而シ英國ハ

國ナシハ其海ヲ其カハ決シ

之ハ知儀モ其地ハ日本国民

心得ニ十分ノ支子ヲシ朋友

國事論ヲ振作スル地ヲ覚悟

(2)

両下膳の御器懐キ之ヲ我が御膳の如ク

ニ成リテ其ノ中ノ遺徳不能持也 愚昧

我等両下ニ秘教ニシテ中ニ在ルヲ成ル

可ラスサレハ斯行位位何者勅果一ツトモ

勅果の端位シテ之師位可任両下モ之儀

ニシテ何事ニ其位位分ノキ朕ヲ持也信ニ

ヲキテ上ナ

本邦の章の英國ニ来リシハ其ノ如ク

極メテ冷意ヲ奉リカハ其ノ概略ニテ

可取旨下高ニハ高見ヲ其ノ英國モ皆

造ノ高貴記年劇甚ニ赴キテ其ノ如ク

製ありし下ニ書籍の扱力可達之ハ是命
第ノ是志後海ニ如リテ其ノ一見ニ集海所
居リカニ

好イニ其ノ如ク是ニ其志は、是表即表

其原意ハ日本ニ表カレシハ我邦の業ニ

可キ好扱ニ其如ク此ニ其志ニ事ハ其志ハ

自主ノ見成テ自立ノ抱負ナリ其志ハ

其志ハ西氏カ其志ノ高ニ當ラニ由即其

大柄カ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ其志ハ

(3)

台湾は日本に施政は甚だ不評判に

小生は如何に理由を詳知せば其の

何んが当局者覚悟アリと存候外國に

アレは何等も日本に不評判に不愉快

ニはま

当地ニシテ藝者ト申す其居有之は皇

太子以下も其見ニおまを田に物

は不交抱膜絶倒ニはまを田に西洋人

か日本ヲ知ヌニは在リヤム

在外日本人の音聲地ヲ違ハルトシテ

日本人の特色ヲ一併ニも存スルヲ恐レ

其ノ後何ニ前進の雄兵ヲ依リ大日本ヲ

少ク志し、自がう日本人を漸ク凡ては

奇怪ナ美ニ其國が在界ニ増スニ

畢竟ニ是界の内の産同様に増ス

旅行を故と云ふ候も其アリ也

当地ニシテ月モ汗ハ不カ植物ニ樹木

尤も美ニ樹木は英人ヲ水ニ一たうた

古有の因下ノ園中ニ是非株ヲ植ハ

花ヲ其樹の御時人ニ其妻は其聲

は付言候加為公使夫婦一方ニ葉相違

挿送出ル不
一月二十日 倫敦 德海生